

令和4年度 信州 ESD/SDGs 成果発表&交流会 実践記録

1. 学校名 対象(学年、人数) 山ノ内町立山ノ内中学校 1学年 64名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) テーマ 志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探ろう

(2) 目標 志賀高原研修旅行実施に当たり、次の5つの観点から志賀高原の魅力や課題を探り、より豊かなユネスコエコパークや山ノ内町の存続を目指そうとする。

5観点…①自然と人間の共生 ②自然資源の保全 ③地域資源の活用 ④文化資源の活用  
⑤国際理解・交流 (共生は省略名)

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- 多様性(多種多様な現象が起きていること) 公平性(一人ひとりを大切に)  
相互性(関わりあっている) 連携性(互いに連携・協力すること)  
有限性(限りがある) 責任制(責任を持って)

その他( )

②育成する資質・能力

- 批判的に考える力 他者と協力する力  
未来像を予測して計画を立てる力 つながりを尊重する態度  
多面的・総合的に考える力 進んで参加する態度  
コミュニケーションを行う力

(4) 関連するSDGs ④ ⑥ ⑦ ⑫ ⑭ ⑮

(5) 探求課題・活動実践の概要

◇グループ別追究課題の設定 12グループを5人の1学年職員が担当

- ①共生A:自然と人間の共生について 共生B:自然と人間の共生についてどう取り組むか  
②自然A:志賀高原の自然について 自然B:自然の大切さや美しさについて  
自然C:自然豊かな核心エリアをどうしたら長く守れるか 自然D:志賀高原の生物について  
自然E:志賀高原についてもっと知ろう  
③地域A:身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい 地域B:山ノ内町のゴミ問題  
④文化A:山ノ内町の特産品を守るにはどうしたらよいか 文化B:山ノ内町の観光業や特産品  
⑤国際:どうすれば外国人観光客がふえるのか?



3. 流れ(指導計画の概略)

5月…志賀高原研修旅行の目標や日程、活動内容の理解と、課題グループの調査、決定

6月…グループ活動、研究調査、アンケート等(4時間)

7月…志賀高原研修旅行(7/12-13) トレッキング、外来種駆除と染め物体験、水資源保護講座等

8月~9月…研究調査したことをパワーポイントにまとめる。各第グループの代表の検討

白樺祭(学校祭)で3グループ発表…自然E、地域A、国際グループ

10月…未発表のグループの学年内発表(全グループの発表終了)

4. 効果・反応・所感

- 志賀高原については、小学校の頃からなじんでいるエリアだが、実際に研修旅行で現地に赴き、ガイドからエコパークの現状と課題を知り、より身近な問題としてとらえることができた。
- 外来植物のルピナスを駆除し、それを使った草木染め体験をすることで、自然保護の一過程を知り、自然の保全についての意識が高まった。
- 志賀高原の自然は、あらゆるものと関連で現在があり、その自然を維持・保全していく人間のあり方について考えられる生徒もでてきた。
- 生徒の感想より「2日間の研修旅行がありました。1日目はSDGsのことのお話を聞きました。2日目は、写真をとって、景色がとてもきれいでした。そめもの体験もとても楽しかったです。」

5. 指導方法・体制の工夫(協力者や資源)

- ①志賀高原ガイド組合 ②志賀レークホテル児玉さん ③志賀高原漁業協同組合長児玉さん